



明治大学では、2005年1月に本学出身の人権派弁護士・布施辰治の韓国「建国勲章」の受章を記念して「布施辰治・自由と人権」と題するシンポジウムを開催しました。

それ以後、「日本のシンドラ」ともうたわれて映画『弁護士・布施辰治』が制作され、また大石進氏により『弁護士布施辰治』が刊行されるなど、日本国内のみならず韓国や台湾などのアジア地域においても、その国際的人権活動が再評価されてきました。また明治大学史資料センターでは、「布施辰治著作集」（全17巻、2007～2008）と『布施辰治研究』（2010）を刊行しました。そして昨年秋には森正氏による渾身の長編『評伝・布施辰治』が完成、刊行されました。その間、2011年「3・11」東日本大震災では、布施資料が保存されていた石巻文化センターが被災する不幸にも遭遇しました。

あれから10年、この間における布施辰治にたいする再評価の動きを「人権」と「コモンズ」（入会権）という視点から検証することに思い至りました。下記の要領でシンポジウムと講演を企画しました。こぞってご参加ください。入場は無料です。



## 『評伝布施辰治』出版記念会

時間 17:00～19:00

会場 明治大学駿河台キャンパス・アカデミーコモン1階「カフェ・パンセ」

会費 4000円

関連  
行事

展覧会「弁護士・社会運動家 布施辰治展」

会場 明治大学中央図書館ギャラリー

会期 6月27日(土)～7月12日(日) (6月29日は休館日)

入場  
無料